

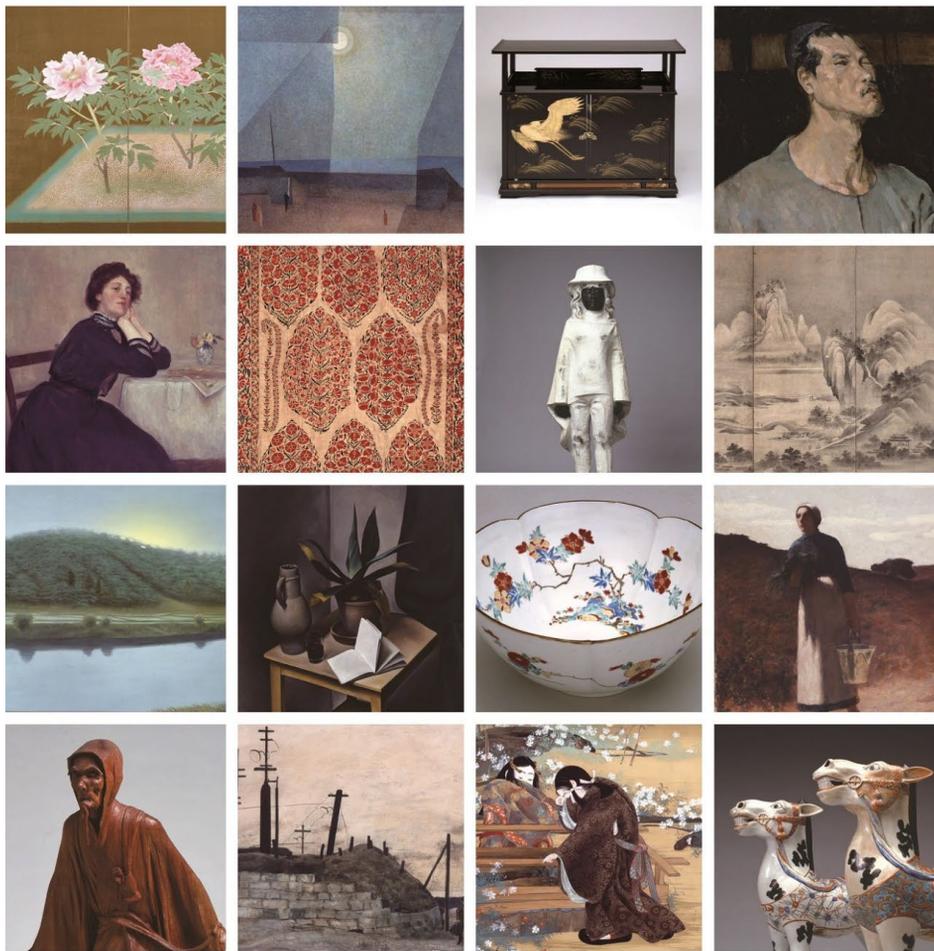
press release

COLLECTION EXHIBITION

100の出会い、 無限の対話

G7広島サミット
応援企画

100 Encounters, ∞ (infinite) Dialogues:
Support Project of the G7 Hiroshima Summit



第1期

2023 4/28 Fri ▶ 7/2 Sun

[開館時間] 9:00~17:00 (金曜日は20:00まで開館) ※入場は閉館の30分前まで
[休館日] 月曜日 (特別展の会期中は除く。5/29は展示替えのため閉室。)
[入館料] 一般 510(410)円 / 大学生 310(250)円 ※ ()内は20名以上の団体
[縮景園共通券] 一般 610円 / 大学生 350円 ※特別展は別料金
※高校生以下無料 ※当館で開催中の特別展入館券にて無料でご覧いただけます。
※障害者手帳をお持ちの方や65才以上の方、県内の大学に在学する留学生の方などは無料(1階総合受付でお申し出ください)。



広島県立美術館
Hiroshima Prefectural Art Museum

2階展示室

〒730-0014 広島市中区上磯町2-22
tel.082-221-6246 fax.082-225-1444

<https://www.hpam.jp/>



ここから世界へ、ここから未来へ
HIROSHIMA SUMMIT
広島サミット 広島県

【概要】

所蔵作品展 第1期

G7広島サミット応援企画 100の出会い、∞（無限）の対話

1968(昭和43)年に開館した広島県立美術館は、1996(平成8)年に現在の建物に生まれ変わり、所蔵作品展と特別展という両輪によって美術の魅力を発信しています。

当館は開館以来、多くの方々のご協力を得てコレクションを充実させてまいりました。収集重点方針として「広島県ゆかりの美術」「1920～30年代の美術」「日本およびアジアの工芸」を掲げ、現在は総数5,000点を超えています。

さて、今期の所蔵作品展では、県内の巨匠を一望できる「ウェルカムギャラリー」と「G7サミット応援企画 100の出会い、∞（無限）の対話」の2本立てで、当館コレクションをご紹介します。

展示室付近に皆さまに感想をお書きいただき交流できるコーナーを設けるとともに、ギャラリートークや対話型鑑賞会、インスタグラムのライブ配信といった関連イベントも開催しつつ、さまざまな角度から当館コレクションの魅力を発信します。

ご来館のたびに新しい美の魅力を発見し、心と癒やされる展示をめざし、今後も努力を重ねてまいります。今年度の所蔵作品展にもご期待ください

【第1展示室】西洋美術

当館の西洋美術コレクションは、主に「1920～30年代の美術」という重点方針のもとで収集された油彩画や水彩画、版画、彫刻等で構成されています。

二つの世界大戦に挟まれたこの時代、揺れ動く社会状況に呼応するように、各国で様々な美術運動が展開しました。スペインからフランスに渡ったサルバドール・ダリによる《ヴィーナスの夢》は、人間の無意識を探求したシュルレアリスムを代表する画家の大作です。同じくスペイン出身で、フランスで活動したピカソは《フランコの夢と嘘》に反戦の思いを込め、ドイツでは第一次世界大戦が美術に変化をもたらしました。表現主義のヘッケルが荒々しい筆致や色で感情を込めた一方、新即物主義のカーノルトは冷めた視線で対象を捉えています。新大陸アメリカでは、コールドラーが動きを取り入れた独自の抽象彫刻を確立、ベン・シャーン、イサム・ノグチはそれぞれの出自を反映した作品を手がけました。

彼らが生み出した多様な表現は、現代の美術にも継承され、今日へと繋がっています。激動の時代を生き、創意あふれる芸術家たちの優品をご覧ください。



アレクサンダー・カーノルト《静物》1925年

【第2展示室】日本洋画

当館の日本洋画コレクションは、重点方針である「広島県ゆかりの美術」と「1920～30年代の美術」に沿って収集した油彩画、水彩画、版画等を軸に構成されています。

二つの世界大戦に挟まれた1920～30年代は、雑誌等のメディアの発達や、国力の充実を背景にした日本人留学生の増加などにより、西洋の先進的な美術思潮が幅広く日本に紹介されるようになった時代です。一方で、世界的な不況の波が押し寄せ、戦争への傾斜から社会不安も広がるなか、作家たちは新たな表現様式に学びつつ、単なる模倣ではない日本人ならではの表現を探求することで、個性と創意に満ちた作品を生み出していったと言えるでしょう。

この展示室では、広島の近代洋画史の中心作家であるこばやしせんこ小林千古、みなみくんぞう南薫造、あいかつ愛光をはじめ、はせかわとしゆき長谷川利行など1920～30年代に独創的な画風を展開した作家たち、さらには戦後、国際的に活躍したすがいくみ菅井汲やたかはししゅう高橋秀らの作品に、広島彫刻史を彩るみずふねちくしゅう水船六洲とあきたがわひさし芥川永の作品も交えてご紹介します。

画材の特質を生かして豊かな表現力を獲得した作品と、心ゆくまで対話を重ねていただければと思います。



長谷川利行《田端変電所》1923年

【第3展示室】日本画

「日本画」は、紙や絹に、墨、岩絵具などの天然絵具や金などの素材を用いて描かれる、日本の伝統的な絵画です。

当館の日本画コレクションは、「広島県ゆかりの美術」などの方針のもと、室町時代から現代まで、約500年にわたる作品を収集しています。

なかでも、広島を代表する名所を描いた《厳島図》(前期展示)、広島藩主浅野家の別邸「縮景園」に関連した《西湖図》(後期展示)は、広島ゆかりの主題を重視したコレクションです。

江戸時代には、芸備(広島)出身のおかみんざん岡岷山、ひらたまきおん平田玉蘊らが、上方や江戸の文化に触れることでその芸術を花開かせ、近現代では、こだまきぼう児玉希望、おくだげんそう奥田元宋、ひらやまいくお平山郁夫などが登場しました。

地域性に結びついて育まれた広島の絵画は、やがて日本画壇に独自の地位を占めるに至っています。当館所蔵の代表的な日本画作品と、彫刻史に輝く広島ゆかりの彫刻家・ひらくしでんちゅう平櫛田中、えんつばかつぞう圓鐔勝三作品と併せて、広島の美術の魅力をお楽しみください。



奥田元宋《待月》1949年

【第4展示室】日本とアジアの工芸

当館の工芸コレクションは「日本を含むアジアの工芸」を中心に「広島ゆかりの美術」といった方針により収集し、陶磁、漆工、染織、金工、竹工など幅広い分野を含んでいます。

日本の工芸では陶磁や漆工の優品を中心にご紹介します。17世紀に西洋へと輸出された柿右衛門様式磁器、民芸運動を牽引した浜田庄司^{はまた しょうじ}、戦後の現代陶芸をリードした八木一夫^{やぎ かずお}らなど、多様な展開を経て今日へと続く陶芸の美をご堪能ください。また漆工では、近代漆芸史に大きな足跡を残した六角紫水^{ろっかくしすい}、漆聖と崇められる松田権六^{まつだ こんろく}など、いずれも息を呑むような繊細な表現にご注目ください。

アジアの工芸からは中央アジアの金工と染織、インドおよびインドネシアの染織をご紹介します。シルクロードの要衝の地、現在のウズベキスタンやトルクメニスタンで制作された刺繍布・衣装・ジュエリーは、独特の美意識を反映した華やかなデザインで私たちを魅了します。インドの更紗やインドネシア・バリ島の経緯緋^{たてよこがすり}は高度な技術力と芸術性を示しています。

長い歴史を経て今に伝わる名品をどうぞお楽しみください。

また、今年3月6日に逝去された広島県ゆかりの陶芸家^{いまい まさゆき}・今井政之氏を悼み、館蔵品による追悼展示を行います。



《伊万里柿右衛門様式色絵馬》17世紀後半

【ウェルカムギャラリー】

当館では、リニューアルオープン25周年を機に、新たな展示コーナーとしてウェルカムギャラリーを設けました。みなさまへの歓迎の気持ちと、「多くの方々の美術への誘いとなるように」との願いを込め、この場所を「ウェルカムギャラリー」と命名しました。当館の顔ともいべき大理石に囲まれた展示室で、わかりやすい作品解説をご用意しています。また、当館の成り立ちをご紹介します動画を展示室の入口で上映しています。

本展では、「これが、県美の広島愛」をテーマに、広島県ゆかりの著名作家^{こばやしせん こ みなみん ぞう あいみつ}である、洋画家の小林千古・南薫造・靄光、日本画家の児玉希望・奥田元宋^{こたま きぼう おくだ げんそう}・平山郁夫^{ひらやま いく お}、彫刻家の平櫛田中^{ひらし でん ちゅう えん づばかつ ぞう}・圓鏗勝三^{ろっかく しすい}、工芸作家の六角紫水・清水南山^{しみず なんざん}・今井政之^{いまい まさゆき}の作品を一堂に展示します。作家を育んだ広島という地域の特性や、作家の広島への想いを伝えるエピソードと合わせて、当館が誇る名品の数々をご覧ください。

また、1階ロビーにて画家^{すが い ぐみ}・菅井汲が所持したポルシェの展示や、1階図書室では美術をテーマにしたマンガコーナーを設けるなど、多くの方々に美術に親しんでいただく場をご用意しています。

美術が好きの方も、これから好きになる方も、どうぞお気軽にお楽しみください。



靄光《窓辺の花(百合)》1994年



【関連イベント】

■リレートーク

当館学芸員が各室の見どころをリレー形式で紹介するトークイベントです。(ワイヤレスガイド使用)

日時: 2023年6月23日(金)15:00～(各室10分程度)

場所: 2階展示室

講師: 森 万由子(当館学芸員)、藤崎 綾(当館主任学芸員)、神内 有理(当館主任学芸員)、岡地 智子(当館主任学芸員)

定員: 15名

※要事前申込【Tel.082-221-6246(当館)】

※要入館券。会場入口でお待ちください。

■対話によるギャラリートーク

所蔵作品展に出品中の作品から、学芸員が選んだいくつかの作品をみんなで話しなが鑑賞します。(ワイヤレスガイド使用)

日時: ①2023年6月17日(土)15:00～ ②2023年7月1日(土)15:00～

場所: 2階展示室

ナビゲーター: ① 岡地 智子(当館主任学芸員)、森 万由子(当館学芸員)

② 福田浩子(当館学芸課長)、岡地 智子(当館主任学芸員)

定員: 8名

※要事前申込【Tel.082-221-6246(当館)】

※要入館券。会場入り口でお待ちください。

■インスタライブ配信

閉館後の展示室内からギャラリートークをライブ配信します。(約15分間)

①西洋美術 2023年5月30日(火)17:00～ 講師: 森 万由子(当館学芸員)

②日本洋画 2023年6月6日(火)17:00～ 講師: 藤崎 綾(当館主任学芸員)

③日本画 2023年6月13日(火)17:00～ 講師: 神内 有理(当館主任学芸員)

④工芸 2023年6月27日(火)17:00～ 講師: 岡地 智子(当館主任学芸員)



公式Instagram

【媒体掲載用の画像提供について】

※いかなる場合も本プレスリリースからの転用は御遠慮ください。

※都合により出品作品が異なる場合がございます。御了承ください。

※画像については提供が可能です。掲載の際に画像が必要な場合は、当館へお問い合わせください。

※画像掲載の際には、画像とテキストが掲載されたレイアウト原稿を事前に当館まで提出いただき、

1週間程度お時間を頂戴いたします。御了承ください。

来館の皆さまへ

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、以下の対策を行っています。
御理解と御協力をお願いします。

- ・発熱等の症状がある場合は、軽症であっても入館を御遠慮いただくようお願いします。
- ・手指のアルコール消毒、咳エチケットの徹底をお願いします。
- ・人と人とが触れ合わない程度の間隔を確保するようお願いします。
来館者が多い場合は、入場制限を行うことがあります。

※なお、マスクの着用は個人の判断が基本となります。
このため、一部のスタッフはマスクを着用することに御理解ください。

問い合わせ先

広島県立美術館

〒730-0014 広島市中区上幟町2-22

TEL.082-221-6246 FAX.082-223-1444

E-mail iroeuma2@gmail.com

担当 学芸課 山下 寿水

総務課 広報担当 一色 直香、弘津 かおる

— 当館公式SNSはこちらから —

